保育の實際

民主的性格の方向づけ（一）

倉橋惣三

一　性格の明朗性

（イ）民主的性格と明朗性

明朗は、民主的性格の特質である。或は民主的生活の生まれる地だといつてもよからう。又、民主的生活の所産でもある。民主的生活は、強い性格をも必要とし、深い性格をも缺いではならぬが、明るさのないところに、眞の民主的生活はなく、眞の民主的生活は必ず明るさを伴ふ。殊に、民主的生活の要件であるひろさといふことは、つまりは明るさに他ならぬこもいへる。ひろいからあかるい。明るいから廣い。生活に蔭があつては、眞の民主的生活でなく、蔭のない生活は明るい性格からのみ生れる。

明るい性格といふ中にも、いろ〳〵あらう。たゞ淺く簡單だから明るいだけなのが、性格として、深いものでも、高いものでも、貴い譯のものでもなからう。子どもの、子どもらしい輕い明るさそのものが、そのまゝ、性格として尊價あるものともいゝ難からう。しかし、その明るさにのみ、良いもの、正しいもの、殊に健全なもの、又眞に強いものが、培ひ育てられることは確かだ。殊に、淺く簡單でありながら、既に明るさが足りなかつたり、缺けてゐたりしては、そこに發生するものが憂慮せられる。最もおそるべきは、何も生れず、何も植ゑつかず、何も育たないかも知れない。弱々しく不健康な性格傾向に、人間を最も健全幸福ならしめる民主的生活を期待することはむづかしい。

（ロ）幼兒の本來の明朗性

幼兒は本來明朗である。從つてその明朗性を害ひ傷けないことが、この性格方向づけの第一の用意とせられる。勿論、好んで、少くも意識的にそんな仕向けがせられる筈はないが、人生の暗い蔭をもつ古い童話などで、知らせなくていゝことを知らせ、感じさせなくていゝことを感じさせ、望ましくない影響を與へることがある。感傷的な悲劇童話などもその一つだが、それで強調される道德性のために語られたり、又、話し手の安價な效果滿足のために濫用されるやうな、とんでもない場合もないといへない。

が、それらよりも注意すべきは、つまらない恐怖感を與へて、幼兒の世觀感をくもらせることである。恐怖などいふことは、人間の民主的權威にあつてならない筈のものであつて、それが非科學的なお化け話であらうと、非社會的な暴王話であらうと、軟い心に、うす暗い思ひを殘さずにゐない。幼い時聽いた話が、いつまでも、心のどこかに殘つてゐたり

することは、よく人のいふところである。

（八）幼児にもある不明朗性

明朗なる筈の幼児に、不明朗な、陰性の生活傾向をもつものが、まゝある。性質といつても、環境の影響によることが多く、本來そういふ氣質といふのではないから、性格そのものとてしは、ほんの上かわのことであるが、見のがしてはならないものが往々ある。

その陰性傾向を、幼児にあり勝ちなものに就て類別してみると次の如くなる。

一類、人をうらやむ。ねたむ。そねむ。

二類、人の惡口を好む。人のかげ口をいふ。人のことをいひつける。

三類。人をうらむ。人をにくむ。

四類、人をけぎらひする。人をえこひいきする。

五類、人の好意を受け入れぬ。人を疑ふ。人に信頼せぬ。人になじまぬ。

六類、人前にしりごみする。人おじする。人を避ける。

七類、意地わる。人をいぢめる。人を困まらせて喜ぶ。けちをつける。

八類、小不平家。不服屋。ぶつ〳〵や。不機嫌。

九類、かくしごと。ごまかし。小策略家。小陰險家。

十類、めそ〳〵や。小感傷家。

以上、まだあるかも知れず、互に重復してゐるかも知れず同じことの異つたあらはれかも知れない。又、用語が大げさ過ぎて、幼児の生活にあはないところも多いが、その一つ一つを道德的に見て咎めようとするのではない。これらの、どの一つでもが、幼児の性格に不透明と混濁とを與へることがないといへないのを懸念するのである。

（二）幼児の明朗性の敎育

さてその明朗化に就ては、生理的方面（體質、健康狀態等）と、環境的方面（家庭境遇、ともだち關係等）とを先づ注意しなければならぬが、所謂生活指導の上での方向づけとしては、性格の他の傾向の場合と趣きを異にするところがある。即ち性格の强弱のやうに鍛錬的の仕方はとれない。又性格の粗密のやうに訓戒的の仕方もとれない。殊に、少しでも意識にのぼせる仕方をとつてならないことは、明朗化生活指導の第一要義である。

そのためには、明朗になるやうな環境を與へるのが肝心だが、若し、その子のそういふ傾向があらはれた時は、相手にせず、況して咎めたり、その場で訓戒したりもせず、知らん顏で、まぎらかして仕舞ふがいゝ。明るい光の中で、暗い蔭が自然に消へるように。

（ホ）わたしたち自身の明朗性

それにつけても、われ〳〵が、その光り、といふまでゞないとしても、明朗な性格を幼児の前に絶えずあらはしてゆか

なくてはなるまい。なにも、始終にこ〳〵顔をつくつてゐるといふのではなくとも、物の見方、物の感じ方、殊に子ども達の生活のさばき方に、明るさを失つてはならない。しかもこの性格については、子どもよりわれ〳〵の方が、不明朗になり易い複雜性をもつもので、といつて、子どもの通りではゐられない譯だし、そこに、眞の性格としての、重要な注意が必要になる。そのために、日頃の高い教養が大切だが、實際として、子どもといつしよに、我れを忘れて遊びもし、仕事もし、その集注の無我によつて單純化した心に、つまらぬ複雜性のまぢらぬやうにすることだ。暗さはつきり心の隙間にかげらう陰影だから、そのすきまを無くすれば、陰性の餘地もなくなるのである。

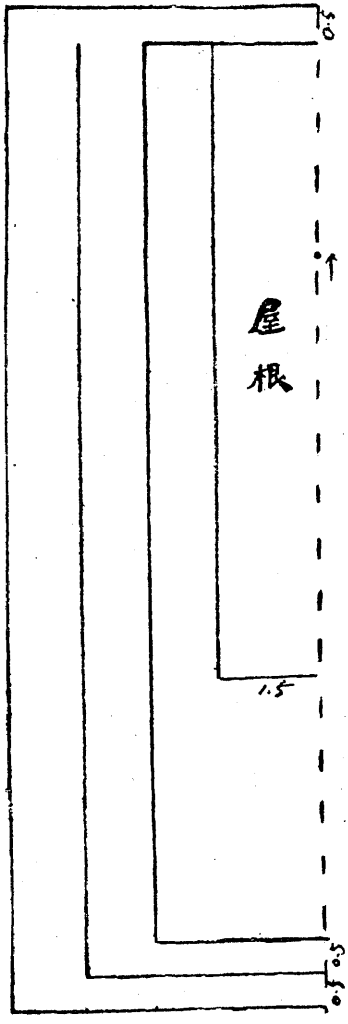
玩具手技

「ぶらんこ」

東京女高師附屬幼稚園　及川　ふみ

材料　古はがき　二枚
　　古　糸　二〇センチ

挿圖1　の如く葉書を、幅四センチ4半に二つ折りにして寸法通り線を引き、鋏を入れます。柱を茶色にぬると奇麗になります。塗る時は裏表ともに塗ります。外の枠と内の枠は下で七センチの間隔をおいて前後に開きます。

挿圖2　はぶらんこに乘る子供で大體の大さを示したものです。形は幼兒たちが葉書を二つ折にして左右のバランスがとれる樣に切り拔きませう。ぶらんこに乘つてゐる子供の

第一圖